

経済学部経済学科通信教育課程

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

近年、社会人がキャリアアップに必要な資格をとるために通信教育課程で学ぶというケースや生涯学習としての学び直し、多様な背景を持った学生の学びの場として通信教育課程に対する社会的ニーズの多様化が見られる。このような状況に対応すべく、他大学の通信教育課程では資格取得へのカリキュラム変更、スクーリングの機会の増加、授業料の改定などの取り組みが行われている。経済学科において資格取得に直結するカリキュラムの構築は難しいかもしれないが、他方で近年統計学や数学の素養がビジネスマンにとって必要不可欠なスキルとして認識されつつある中で、経済学の分析手法に対する社会的ニーズはますます高まっている。通信教育課程に対する社会的需要の低下という構造的な問題に直面する中で、経済学部経済学科通信教育課程はメディアスクーリングの拡充など学生のニーズに基づいたカリキュラムの構築に乗り出すだけでなく、学習成果の向上を目的として、科目とディプロマ・ポリシーの連関性の可視化やカリキュラムの体系化、またカリキュラムツリーとカリキュラムマップの作成に取り組んでおり、その状況改善のための取り組みは評価できる。今後も、経済学科通信教育課程においてもより特色のあるカリキュラムの構築を期待する。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

通信教育課程において身体障がい者、精神障がい者、精神疾患が重い学生等も多く在籍している。こういった学生への学生支援について、学生相談・支援室等の学内各所との連携をはかり、通信教育部として対応している。

カリキュラムの体系化等については、2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とする一方、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、メディアスクーリングの拡充なども行い、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置する努力をしている。

また、2017年度には、すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを明確にしつつ、それをもとに学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを体系的に作成し、HP上に公開することで学生の履修の一助としている。

特色あるカリキュラムの構築については、通信教育部全体や本学学務課、通信教育協会等と連携をはかりつつ、引き続き、密に連絡を取りながら努力する。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部通信教育課程には、身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える学生など、多様な学生が在籍している。このような学生の多様性を受けて、学生相談・支援室等と連携した学生支援のための対応がはかられており、評価できる。それだけでなく、2013年度から実施されたカリキュラム改革によって、通学課程と同等の教育内容の提供やメディアスクーリングの拡充など、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目が配置されている。

2017年度にはディプロマ・ポリシーやカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを整備して公開するなど、通信教育課程の教育の質をさらに向上させる努力がなされており、評価に値する。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

通信教育課程は、通信学習、スクーリング、メディアスクーリングといった様々な形態で教育を提供している。学生は自分に適した学習形態を選択できることが通信教育課程の特徴の一つである。特にスクーリングにおいては、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間14週の春期・秋期スクーリング、3日間の集中授業である週末スクーリング、地方スクー

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

リング、GW スクーリング、更にインターネットを利用したメディアスクーリングを開講しており、その形態は多様である。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として85科目（2020年度）を設置（予定）している。これらのメディアスクーリングにおいては、リニューアル（撮り直し）も一部で実施され、学生のニーズに対応している。これら多様な開講形態、多様なスクーリングは、社会人、障がい者等を含む様々な背景を持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・教育課程表

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html>

・マップ

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf>

・ツリー

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf>

・スクーリング開講科目一覧

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/media-subject.html>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とすると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、もっとも幅広い経済学の知識の習得、教育を実現した学科の1つとなっている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・教育課程表

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html>

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

・Web 学習相談制度

・ステップ型の学習ガイダンス（1ステップ：職員による制度説明・2ステップ：卒業生による経験談他・3ステップ：教員による学習指導他）

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・学習ガイダンス

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

通信学習において、市販本を教科書として利用している科目のうち、一部の科目においてスタディガイド（学習指導書）を作成・配布し、学習の手助けとしている。また、通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。

スクーリング時においては、オフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。

この他、前述のWeb 学習相談制度は通信教育部卒業生を担当者とし、履修のみならず、学習相談等にも対応している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・スタディガイドサンプル ・学習のしおり抜粋</p>	
<p>1.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・通信学習シラバス・設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・シラバス「成績評価基準」 ・各期間と各都市のスクーリング シラバス「成績評価基準」, 「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載</p>	
<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・Web シラバス記載のシラバス</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・進級判定は卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は学務委員会を通じて教授会に報告</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
<p>②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。 すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅した。それをもとに、各学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。これにより学習成果を測定するための基礎資料が完成した。またカリキュラムツリー・カリキュラムマップをHPに公開している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・マップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・ツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf</p>	
<p>③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。 通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>・多様な背景を持った在學生が多いのが通信教育課程の特徴であるが、在學生のニーズを正確に把握するために学生アンケートの集計結果を活用している。これは受講形式としてメディアスクーリングの拡充を目指すことなどの方針決定に寄与しており、教育効果を高めるための工夫かつ長所である。</p> <p>・成績評価基準の変更と GPA 制度の導入により、公平で信頼性のある評価を実施する努力もしている。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>未解決の問題としては、専任教員不在問題がある。この問題については、大学通信教育設置基準の附則にあるとおり、「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編制、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる。」に従い、他大学と歩調を合わせながら対応する必要がある。</p>	

【この基準の大学評価】

<p>経済学部通信教育課程では、通信学習、スクーリング、メディアスクーリングといった様々な形態で教育が提供され、多様な学生がそれぞれ自分に適した学習形態を選択できるという特長を有する。メディアスクーリング開講科目の拡充や取り直しなどの改善も、学生アンケートの集計結果を踏まえて実施されており、多様な人びとのニーズに応えるものとなっていると評価できる。</p> <p>経済学部通信教育課程では、通学課程と同等の内容を提供し、かつ 経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選し、体系的に配置した結果、日本の通信教育課程において、もっとも幅広い経済学の知識を習得できる教育を実現した学科の1つとなっている点は、高い評価に値する。</p> <p>経済学は数学的な素養と抽象的な思考を必要とする学問であり、通信教育を通じた教授に配慮が必要と思われる分野だが、これについても、Web 学習相談制度やステップ型の学習ガイダンス（1ステップ：職員による制度説明・2ステップ：卒業生による経験談他・3ステップ：教員による学習指導他）にとどまらず、スタディガイド（学習指導書）の作成・配布や、通信学習を進めるにあたり、疑問点が生じた場合に「学習質疑」制度を利用して直接担当教員の指導を受けることを可能とするなど、経済学を通信教育で伝達するための努力が十全に払われており、高い評価と敬意に値する。</p> <p>今後の展開に期待したい。</p>
--

III 2019 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
	年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。
	達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		アンケート調査の結果は教授会の回覧資料として経済学部の全教員が閲覧している。
	改善策	通教学務委員だけでなく、経済学部の教員全体が通信教育部の現状や改善に関心を持つような環境づくりが重要である。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
	年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。
	達成指標	修正後のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの事務局への提示。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		S

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		理由	新規のメディアスクーリング開講科目についてカリキュラムマップおよびツリーの修正を行った。提供される科目数が増えることでカバーされるディプロマポリシーの冗長性が増し、カリキュラム全体の充実が図られている。
		改善策	定期的カリキュラムの見直しを行うとともに、カリキュラムツリー&マップの更新が必要である。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
	年度目標	学生アンケートでも好評を得ているメディアスクーリング科目の増設。	
	達成指標	メディアスクーリング授業の撮影コンテンツ。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		学生アンケートで要望が多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を増やしている。2020年度には「開発経済入門 A/B」と「社会保障論 A/B」が開講される予定である。	
改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
4	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。	
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。	
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		学習ガイダンスで経済学科のカリキュラムについて案内し、学生が受講する科目する選ぶ際の方向性について解説をした。	
改善策	カリキュラムを通じて積み上げ式の学習ができるように、今後も継続して学生への学習サポートが必要と考えられる。このため、学習ガイダンスの充実が望まれる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	継続的な学習推進。	
	年度目標	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。また学生相互扶助の観点から先輩学生からの学習アドバイスを法政通信に掲載する。	
	達成指標	ガイダンス実施報告。法政通信の発行。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		昨年度の学習ガイダンスで実施されたアンケートでの意見や要望を踏まえて今年度の学習ガイダンスの内容を改善した。	
改善策	現状では学習ガイダンスは主に入学初年度の学生が参加しているが、2年次以降の学生も参加したいと思える内容に拡充できると良い。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
6	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。	
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。	
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		B	
理由		現状では、DPごとの成績分布や学習成果の積み上げ状況は数値として把握されておらず、カリキュラムマップ&ツリーを導入した成果が測れていない。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	改善策	昨年度に導入された GPA 制度とカリキュラムマップ&ツリーを連携させて、学習成果の評価システムを構築する。							
No	評価基準	学生の受け入れ							
7	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。							
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。							
	達成指標	通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>障がいを持つ入学希望者に対する事前相談制度と通読判定で担当する学務委員が被らないように役割分担を徹底する。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。								
改善策	障がいを持つ入学希望者に対する事前相談制度と通読判定で担当する学務委員が被らないように役割分担を徹底する。								
No	評価基準	教員・教員組織							
8	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。							
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、教授会執行部との連携をはかる。							
	達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができた。また学部執行部との連絡を密に行うことで緊急の問題案件について迅速に対応できた。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>通教学務委員と学部執行部が密に連絡をとることで、迅速かつきめ細かい対応が可能になる。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由	通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができた。また学部執行部との連絡を密に行うことで緊急の問題案件について迅速に対応できた。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	S								
理由	通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができた。また学部執行部との連絡を密に行うことで緊急の問題案件について迅速に対応できた。								
改善策	通教学務委員と学部執行部が密に連絡をとることで、迅速かつきめ細かい対応が可能になる。								
No	評価基準	教員・教員組織							
9	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。							
	年度目標	通信教育課程の教科担当者に専任教員をあてる。							
	達成指標	通信教育課程経済学科科目担当者表。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>今後、定年退職などで授業編成での教員割当が困難になる科目の増えることが予想されるため、通教学務委員の他に新たに教授会内に通教授業編成委員会を設置することになった。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>通教学務委員2名と授業編成委員が協力して授業編成を行うことで円滑な学務運営を行う。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由	今後、定年退職などで授業編成での教員割当が困難になる科目の増えることが予想されるため、通教学務委員の他に新たに教授会内に通教授業編成委員会を設置することになった。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	S								
理由	今後、定年退職などで授業編成での教員割当が困難になる科目の増えることが予想されるため、通教学務委員の他に新たに教授会内に通教授業編成委員会を設置することになった。								
改善策	通教学務委員2名と授業編成委員が協力して授業編成を行うことで円滑な学務運営を行う。								
No	評価基準	学生支援							
10	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。							
	年度目標	スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。							
	達成指標	学生相談記録。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>今年度は事前相談制度の利用が1件もなかったが、障がい者からの要望に対応できる準備を行っている。また学務委員2名での事前相談制度と通読判定の役割分担について取り決めを行った。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	今年度は事前相談制度の利用が1件もなかったが、障がい者からの要望に対応できる準備を行っている。また学務委員2名での事前相談制度と通読判定の役割分担について取り決めを行った。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	今年度は事前相談制度の利用が1件もなかったが、障がい者からの要望に対応できる準備を行っている。また学務委員2名での事前相談制度と通読判定の役割分担について取り決めを行った。								
改善策	障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。								
No	評価基準	社会連携・社会貢献							
11	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。							

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度目標	通信教育協会主催合同入学説明会や5大学合同説明会等を実施し、広く門戸を開放していることを全国の進学検討者にアピールしていく。	
達成指標	広報活動実施報告。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に15回参加した。また、通信教育課程5大学（通信教育で最も古い歴史を持つ5大学）での合同説明会の開催した。
	改善策	合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。

【重点目標】

カリキュラムツリー、カリキュラムマップの認知度の向上。

【年度目標達成状況総括】

通教学務全体としてみると問題点の改善に向けて一歩進んだ1年間だったと言える。教育内容の改善としては、学生からの希望が多かったメディアスクーリングを拡充できた点が評価できる。また、学務運営の改善については、担当教員の定年退職などで今後の授業編成が困難となることが予想されるが、対応策として学部教授会内に授業編成委員会を設置することになった点は大きい。今後は通教学務委員、授業編成委員および学部執行部が連携することで、円滑な通教学務の運営が行えるようになることを期待したい。

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

経済学部通信教育課程の教育面では、新規のメディアスクーリング開講科目が開設され、また、それらをカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに位置づけることによりカリキュラムのより一層の体系化が図られるなど、順調に目標が達成されている。

また教授会執行部が「通教学務全体としてみると問題点の改善に向けて一歩進んだ1年間だったと言える。」と書いておられる通り、通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置いて日常的な学務上の問題に対応する体制が整えられ、さらに、定年退職などで授業編成での教員割当が困難になる可能性の増大を予め見込んで、経済学部教授会内部に通信教育課程の授業編成委員会を設置するなど、経済学部通信教育課程を長期的に円滑に運営するための体制が整えられており、学務面でも目標は十全に達成されたと評価できる。

「DPごとの成績分布や学習成果の積み上げ状況は数値として把握されておらず、カリキュラムマップ&ツリーを導入した成果が測れていない。」とのことだが、今後学習成果の評価システムを構築する予定とのことなので、さらなる展開を期待したい。

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
	年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。
	達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
	年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。
	達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。
	達成指標	メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

4	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	継続的な学習推進。
	年度目標	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。
	達成指標	ガイダンス実施報告。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を实践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。
	達成指標	通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。
	達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。
No	評価基準	教員・教員組織
9	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
	年度目標	通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。
	達成指標	通信教育課程経済学科科目担当者表。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	年度目標	スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。
	達成指標	学生相談記録。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
11	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	年度目標	通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。
	達成指標	広報活動実施報告。
<p>【重点目標】 カリキュラムツリーやマップの認知度向上</p> <p>【目標を達成するための施策等】 カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での説明</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、2020年度も前年度の方針を引き継ぎ、それをさらに発展させる目標が設定されている。具体的にはメディアスクーリングの充実をはじめとするカリキュラムの充実や、いままで取り組まれてきたステップアップ型学習ガイダンスを通じた通信教育課程での学びについての理解の深化、2019年度に大きな進捗をみたと評価できる通信教育課程に関わる学務体制の維持である。これらは2019年度にすでに体制が準備されており、2020年度も着実に目標を達成されることと確信する。2020年度は、通信教育課程在学生のカリキュラムツリーやマップの認知度向上を図ることが重点目標とされているが、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行うなど具体的な方策が準備されており、適切な計画となっていると評価できる。

担当教員の定年等により通信教育課程における開講科目数の維持が困難化する可能性があるとの見通しに基づき、通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持に向けた学部教授会の合意形成が計画されている点は高い評価に値する。

【大学評価総評】

経済学部通信教育課程は、社会人だけでなく、身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える学生など多様な学生のニーズに応えることを要請される。その要請に応え続けることは容易なことではないと思われるが、経済学部通信教育課程では、メディアスクーリングの拡充や、学生アンケートに基づくカリキュラムの検討など、着実な努力が重ねられており、高い評価に値する。

経済学は、数学的な素養と抽象的な思考を、学ぼうとする者に要求する学問であり、学生のニーズに応えるには教える側の一層の努力が、特に通信教育では要求されるだろうことは想像に難くない。経済学部通信教育課程では、Web学習相談制度やステップ型の学習ガイダンスだけでなく、スタディガイドの作成・配布を実施し、「学習質疑」制度を利用した学生の質問に回答する体制を整えている。通学課程とはやや質の異なる教育上の要請が存在することは想像に難しくなく、学務面でのハードルも高いと推察されるが、経済学部通信教育課程を円滑に運営するための長期的なビジョンに基づき、検討が重ねられており、高く評価するとともに、今後のさらなる発展を期待したいと考える。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。